

第二番 双松庵（楊柳觀世音菩薩）

＊第一番札所 眞福寺内

＊御本尊 楊柳觀世音菩薩

＊開基 不祥

一八一〇―一三〇年に書かれた「新編 武蔵風土記稿卷之六十五 橘樹郡之八」によると、双松庵とは、もと村の名主（田邊）十郎右衛門の墓所内にある間口九尺、奥行一丈の寮で、建立年は不祥、御本尊に楊柳觀世音菩薩を安置、とある。六部僧がそこに住んで墓守をしていたと伝わるが、現在は双松庵の建物はない。いつの頃か、田邊家の依頼で、御本尊は眞福寺に遷座され、本堂に安置されている。

御本尊は銅製の唐仏で、高さ十センチメートルほどの半跏像で、右手に楊杖、左手に巻物をもつ。種々の難病を取り除くとされる薬王観音である。

ご詠歌

いにしえの

なにぞのこれる

ちとせまつ

となうるみだと

ぐせのちかいを



（第2番 双松庵）